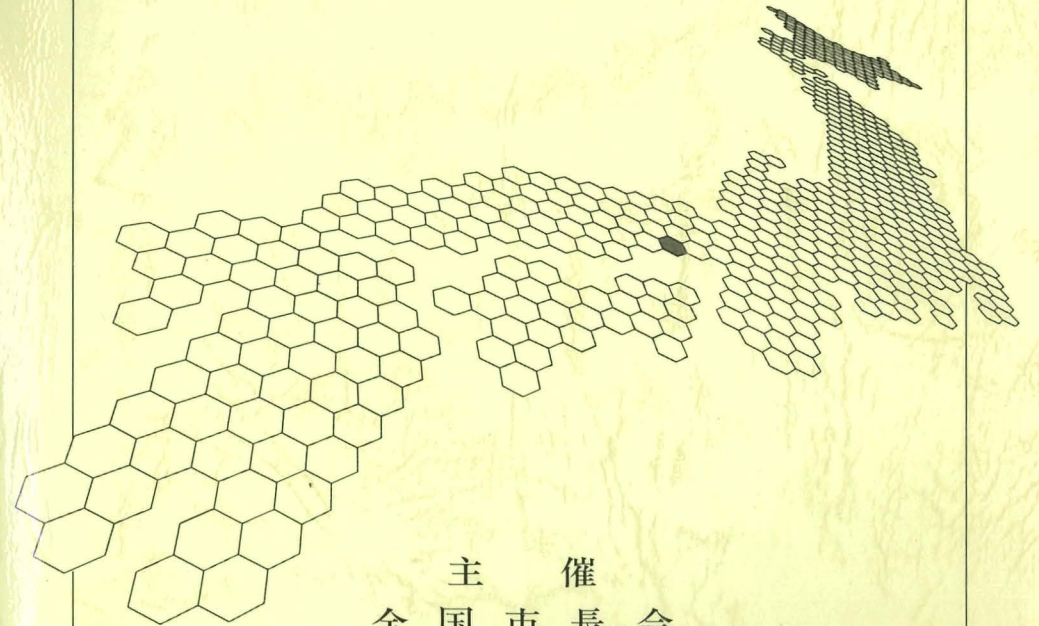


第56回全国都市問題会議

都市の個性 —歴史・文化と新しい都市の創造—

平成 6 年



主 催
全 国 市 長 会
東 京 市 政 調 査 会
日 本 都 市 セ ン タ ー
姫 路 市
協 賛
全 国 市 長 会 館

本書は再生紙を使用しています

都市の個性 歴史・文化と新しい都市の創造

第56回全国都市問題会議

都市の個性 歴史・文化と新しい都市の創造

第56回 全国都市問題会議

01562

E-2-6

56回 全国都市問題会議

基調講演
パネルディスカッション

平成6年10月13日
平成6年10月14日

於 姫路市

都
市
の
個
性

歴史・文化と新しい都市の創造

本書は再生紙を使用しています

全国市長会

目 次

【議 題 解 説】

都市の個性 ——歴史・文化と新しい都市の創造—— …… 1

【基 調 講 演】

都市の個性 ——歴史・文化と新しい都市の創造——
法政大学教授 田村 明 …… 7

【主 報 告】

個性と魅力ある都市・姫路を目指して
兵庫県姫路市長 戸谷 松司 …… 15

【一 般 報 告】

歴史的文化的景観を活かした新しい都市の創造を目指して
北海道函館市長 木戸浦 隆一 …… 21

都市の個性 ——歴史・文化と新しい都市の創造——
沖縄県那覇市長 親泊 康晴 …… 27

歴史都市のまちづくりのために
東京大学教授 樺山 紘一 …… 33

市民主体の個性的なまちづくり
東京大学助教授 大西 隆 …… 38

都市の個性と都市景観 ——その取り組みと担い手など——
神戸大学副学長 多淵 敏樹 …… 43

【パネルディスカッション】

都市の個性 ——誇りと感動が出合えるまち——
立正大学名誉教授 服部 銈二郎 …… 49

と人との出会いによる多種多様な知識・情報の交換の場であり、この異種文化の交流を通して、さらに新しい文化を創造し発展していくであろう。

この市民交流の一環として、国際会議などのコンベンションあるいは民俗芸能・伝統的祭りなどをおこなうイベントなどを開催する都市が年々増加している。最近では、代表的コンベンションである国際会議が年間約1,500件、見本市・展示会が約350件、全国の各都市において開催されている。

このような市民交流の原点である市民参加と市民活動のあり方、コンベンション及びイベントなどの効果的推進の方策なども、関連する課題として考えてみたい。

(2) 21世紀を展望したまちづくり、ひとづくり

市民により創られる都市は、一個の生命体のように絶えず成長と変化を続けていくであろう。市民の新しい価値観により、市民自身の手により、都市に新しい文化が芽生え、将来の歴史が刻まれていくと言えよう。

現在の都市は過去の都市の延長であり、未来の都市は現在の都市の延長線上にあって常に連動しており、都市の未来をより良い方向へ導くのは、現在の市民の着実な取り組みではなからうか。都市の個性は一朝一夕で形成されるものではなく、市民自身が宮々と努力を積み重ねた結果として、長年にわたって形成されていくものであろう。

まちづくりは、そこで生活し活動する市民の要求により方向づけられ、市民自身によって推進されるものであり、これから未来に向かってどのような活動をしていくのかといった、将来を展望したまちづくりが非常に重要である。将来を展望したまちづくり、このためのひとづくりこそが、都市を永遠たらしめ、個性豊かな都市を創造することになるのではなからうか。

21世紀の都市のあるべき姿を展望し、まちづくりに対する市民意識の向上・啓発も含めて、個性ある都市の創造とそこに至る道筋を探求することとした。

【基調講演】

都市の個性

——歴史・文化と新しい都市の創造——

法政大学教授 田村 明

1. 都市の個性とはなにか

都市の個性とは、一口でいえば、他の都市とは異なるその都市らしさである。言い換えれば、その都市のもつ独自性である。その都市にしかないものを持つ都市である。どんなに大きくても個性のない都市もある。また小さくても、個性的な都市もある。個性とは量ではなく、質の問題である。質が異なれば数量的な比較はできない。

個性にはさまざまなものがあるから、多様な個性を認めなければならない。異なる個性はそれぞれが意味をもち、相互に比較して点数を付けられるものではない。

都市はひとつの生き物にたとえられる。しかも、都市の生命は人間よりもはるかに長い。人間にもそれぞれ個性があり、成熟してゆくように、都市にも当然に個性がある。都市の長い生命の間に、いっそう個性に磨きがかかってくるはずである。

個性的な人間は魅力的である。個性的な都市もまた極めて魅力的であり、再び訪れたいと思うだろう。その逆に、個性のない都市は極めて印象が希薄である。それは主体性がはっきりせず、生き生きしていないからであろう。

個性には多様なものがあるが、それは他人の力に依存するのではなく、自ら生きようとする生命力のなかから生まれる。生命力を失うと、個性は希薄になってゆくだろう。個性ある都市とは、主体的な生命力がある都市である。輝

きをもった都市である。ただし、その表現はさまざまに躍動的な個性もあれば、対称的にいぶし銀のような個性もある。

2. 都市の個性の表現

都市の個性はさまざまなかたちをとって表現される。大きな括くりとしては、次のような要素があげられる。

① 景観的な個性

自然の地形・地物・植生、建築、構造物、公園、河川、海岸、植樹など。

② 祭、イベント

伝統的祭、イベント、儀式など

③ 芸術、芸能、特産品

歌、踊り、演劇、影絵、工芸品、特産品、庭園、屋外彫刻、美術品など

④ 風俗、生活

衣装、風習、宗教、日常生活、賑わい、道具・装置など

⑤ 人情、表情、言葉

態度、ホスピタリティ、言葉・方言など

⑥ 飲食の味・盛りつけ

酒、食事、菓子、飲食慣習など

⑦ 物語、歴史

ストーリー、創作の舞台、事実の現場、歴史的建造物、遺跡、歴史的人物・事件など

まだまだ多くの要素が上げられるだろう。しかし、都市の個性とは、ばらばらなものの寄せ集めではなく、こうした要素全体の組合せにより、全体として表現されるものである。したがって、部分的に面白いものがあるだけでは、都市が個性的とは言えない。

都市の個性は、大きくとらえるならば、次のような式で現される。

都市の個性=(風土+歴史)×人の営み

与えられた風土と、先人の残した歴史としての遺産を土台にして、現在の人々が新しい創造を加えながら、全体の組合せをすることにより表現される。

「人の営み」というところが重要な意味をもつ。風土や歴史を生かすも殺すも、現在の人々の営みで決まってしまうからである。

3. なぜ都市に個性が必要か

個性ある都市の反対にあるものは主体性のない画一的な没個性都市である。

現実のところ、残念ながらこのような没個性的な都市が多くなってきた。「駅前を下りると何処も同じようでは区別がつかない」などと言われる。

時代の波に流されるだけで、主体性を失った都市は、急激な変化の荒波を受けて個性を失ってしまう。特に交通・情報手段の発達した現在では、ブルドーザーで均されるように画一化されやすい。また、日本の中央集権的な体質や制度が、十分な自治を育てなかったことも、画一化、没個性化の原因である。

しかし、最近では、都市に個性を求める声が強くなってきた。量ではなく、質を求め、文化都市を目指すようになってきたからである。

なぜ都市に個性は必要なのだろうか。個性がなくても、日々暮らしてゆくことはできるかもしれない。しかし、それだけでは人間として「住むに値する生活」をしているとは言えない。個性ある都市は、都市の内部の人々に対しては、生活に質的な充実感を与え、都市に誇りを持ち、愛着をもつ多くの人々を育てるからである。また、その都市以外の人々に対しては、魅力あるイメージの高いものになる。それは情報を発進する都市である。

逆に個性のない都市では、人々は都市に誇りも愛着もなくなる。そういう都市は、いっそう個性を失った灰色の乾いたものになり、生活の質も低下してゆくだろう。常によりよい都市を求める市民が育ち、真に豊かな生活を送るには、都市は個性を持たなくてはならない。

4. どのようにして都市の個性は育つか——市民の成育と自治体の改革——

個性的な都市とは、質と蓄積に重きをおく社会をつくることである。忙しく時の流れに追い回されるのでは個性は擦り減ってしまう。自らが主体性を持ち、しっかりした価値観と創意によって造られてゆく都市が個性的になる。

広く目を世界的な次元まで拡げながら、自らが考え、悩み、決断し、行動す

る積み重ねのなかから生まれ、育ってくる。

都市とは多様な異なる人々がつくる共同社会だから、少人数の人々だけが個性をもっていても、ばらばらにまとまりのないものになり、都市全体の個性は育たない。都市全体としての共同目的や方向性を持ち、多くの市民に受け入れられていることが必要である。

都市の個性は、都市を共同作品として育ててゆこうという市民が大勢いることが前提になる。その人々は都市に愛着を持ち、自分の意見はあるが他の人々とも協働して、よりよいものにしてゆこうとする。それが「市民」である。都市の個性は、まずはじめに自覚ある市民が育ち行動を起こすことから始まる。

その場合に、「自治体」はこれまでの従来のように、定型化された法令を受動的に執行する機関に留まてはられない。個性的な都市を育てるには、自治体も、市民の側に立って、その協働作業を効果あるようにする市民の政府であり、纏め役、推進役として動かなくてはならない。自治体が、従来の「お役所」から脱して、自ら考え行動するものに変革されなければ、都市の個性を育てることは難しい。

5. 風土と歴史を活かすこと

都市の個性を、ゼロからつくることは難しい。まず、与えられた風土と歴史に着目すべきである。そこに、個性の原点がある。

沖縄の台風や厳しい太陽や土が、あの独特の軒の出の大きい、漆喰で硬められた赤瓦の美しい屋根をつくった。風土が造った個性的な景観である。土地の素材を活かすことも、個性を育てるだろう。

風土は、誰でもがその存在を認識しないわけにはゆかない。だが、歴史は、これをどのように認識し評価し、将来に繋げてゆくかによって大きな差が出てくる。はっきりした文化財だけが歴史というわけではない。古くから口から口へと伝えられていた伝承の物語をまとめた「遠野物語」は、それだけでは一部の人達のものに終わる。遠野市では、市民がそれを自分たちの個性だと認識し、市民ミュージカルに取り入れるなど、都市の個性を形成してゆくテーマになった。

古ぼけた時代に取り残されたように見えた妻籠宿の町並みは、文化財というものでなかったが、市民がその価値を認識し、保全と再生に立ち上がったときに、今までは軽蔑されていた古い町並みは立派に生き、多くの人々に、その個性を評価されている。

古いものが存在しているというだけでは個性にはならない。それを発見・評価し、将来のために活かし、まちの人々がその意味を認め、自分たちのものとして愛情をもって育ててゆくことによって、初めて個性と言えるものになる。

歴史を忘れ消し去った都市は、まるで記憶を喪失した人間のようにになってしまう。歴史は、都市の生きて来た証であり、その活かし方が個性を決める大きな役割を果たす。

6. 文化的「まちづくり」

文化性ある都市は、個性ある都市である。個性を育てることは、文化的な都市に育てることでもある。文化もまた、量では計れない感性や質の問題である。

ただ美術館・博物館や文化ホールというハードな施設さえつくれば、文化が振興されて文化都市になるわけでもない。また漫然と文化的イベントを行えばよいでもない。こうしたものは「まちづくり」の手段ではあるが、それ自体が目的ではない。

文化都市と言えるには、もっと広いさまざまな要素を総合的に備えていなくてはならない。それを列挙してみると、次の囲みのなかのような項目が上げられる。これらは、その都市に住む市民の意識や生活の質の高さといったものが多い。それに伴って、自治体行政の水準も問われる。

このような条件を備える都市は個性的といえるのが、もっと大きなことは、こうした条件を備えている都市なら、さらに個性を磨き、いっそう成熟した個性に育ててゆくことのできる条件であるとも言える。

文化都市の条件

- ① 市民が精神的に充実し、ゆとりある市民生活が行われている。

- ⑫ 市民がまちに誇りと愛着をもち、よりよいものにしたいという意欲があること。
- ⑬ 市民が文化への関心が高く、質の高い文化を評価する目と感性があること。
- ⑭ 市民が多様な文化を鑑賞する機会が多く与えられ、実行していること。
- ⑮ 市民が自ら行うさまざまな文化活動が盛んなこと。
- ⑯ 芸術的創造が行われ、それにふさわしい環境と雰囲気があること。
- ⑰ 歴史や文化的遺産が市民に意識され、よく保全され公開もされていること。
- ⑱ 伝統的な祭りや行事が行われ、伝統的な芸能、技術などが保全されていること。
- ⑲ 町並みや景観が美しく個性的で、全体のデザインが優れていて調和があること。
- ⑳ 街が清潔に保たれ、水や緑や花が多く、ストリーファニチャーも優れていること。
- ㉑ 街が物語性を備え、人の心をそそる独特の魅力をもっていること。
- ㉒ 人々が喜びを感じる賑わいがあり、互いに交流できる開かれた場が多くあること。
- ㉓ 他の地域との交流や文化的イベントが企画され、継続的に行われていること。
- ㉔ 市民が人に対する思いやりと優しさを備え、地域のマナーをもっていること。
- ㉕ 弱者への配慮が行われ、環境にも優しさをもち、自然や動物と共存できること。
- ㉖ 探究し、研究し、創造する場があり、市民も常に学習できる条件があること。
- ㉗ 全体として品位があり、センスのよい文化の香りがすること。
- ㉘ 市民自治の意識で自治体が構成され、職員も質の高い文化性をもっていること。

- ㉙ 世界を見つめながら、都市に愛情をもつ多くの開いた市民が存在していること。
- ㉚ 他の地域や世界に対しても発信できる個性や特色をもっていること。

7. 個性的で文化的な「まちづくり、へ向けて

いま、国際化が叫ばれているが、それは画一的な地域が地球上に広がることではない。多様で個性的な地域が、多数散りばめられることによってこそ、その相互交流が豊かな国際社会を生む。

世界中に個性的で文化的な都市が星のように存在していれば、世界はどんなに豊かなものになるだろう。世界が一つになるとは、世界中を一色に塗り潰してしまうことではない。その逆に、さまざまな個性的な地域を数多く育ててゆくことである。それらが互いに開放的で交流しあい、人種や言葉などの違いを超えて互いに認めあうことである。それによって、世界は異なる文化や人種を共存させることができる。

まず、日本列島に世界にも通用する個性的で文化的な都市や地域が、多数生まれることである。それが、国土を質的に豊かに魅力的なものにする。それは、多くの創造的な個性を育て、異質の文化や、それぞれの思想を尊重しあうことになる。

また、人間は一人だけで自立して住むことはできない。世界を視野に入れながら、まず自分たちの身近な地域を、個性的で文化的な質の高いものにしてゆかなければならない。そうした基礎をもたなければ、多様な価値観が混在する広大な地球を、人間らしい生活の場としてゆくことが出来るはずがない。地球上にまだ生存次元を脅かされている人々が数多くいることを忘れてはならないが、人間は、物質的な満足だけでなく、より心豊かに暮らしたいものである。

都市の個性を育て、文化的な「まちづくり」を行うには、これまで述べたように、二つのキイが必要である。

第一は、自分たちの協働によって地域づくりは行おうという自覚ある市民の存在である。また、第二は、主体性をもって地域と市民の未来のために知恵

のある政策思考と実践行動ができる自治体である。

個性を育てるとは、持てる素材を伸ばすことではあるが、素材が同じだから、同じように個性が育つわけではない。それは、一種の創造作業である。

市民のなかに、多くの創造的なエネルギーとセンスが存在しているが、都市を個性的にするのは、自治体行政の体質を創造的で文化的センスをもつものに、変えてゆくことが重要な課題になるだろう。

【主 報 告】

個性と魅力ある都市・姫路を目指して

兵庫県姫路市長 戸 谷 松 司

昨年12月、姫路市民の誇り「姫路城」が「法隆寺」とともに、わが国で初めてユネスコの「世界文化遺産」に登録され、姫路の歴史に新たな1ページを刻みました。

これは、壮大さと華麗さを兼ね備えた「姫路城」の美と、それを慈しみ、守り、その歴史とともに歩んできた幾多の先人たちと今に生きる私たちの絶えざる努力が、実を結んだものと言えます。

今後も、この「世界の宝」を大切に守り、一層磨きをかけて、次の世代に引き継いでいくとともに、姫路城と調和した個性と魅力あふれる都市づくりを進めることが、私たちに課せられた大きな使命であると、決意を新たにしたいところです。

1. 歴史文化都市・姫路市

姫路市は、兵庫県の西南部に位置し、人口46万5千（全国26位）の「活力ある人間性豊かな都市・姫路」を目指す播磨の中核都市です。

姫路の歴史は古く、その地名は、姫路平野に点在する小丘の一つ「日女道丘」から由来していると、古く「播磨国風土記」に記されており、古来、農耕と文化が開けていた豊穡の地であり、また交通の要衝として、畿内と中国・四国・九州を結び多くの人や物資、情報が行き交い、独自の文化・経済圏を形成してきました。

江戸時代初期には、池田輝政により現在の姫路城・五層七階の天守閣が築か